

(別添3)

【佐川町】

校務DX計画

令和元年度より校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理や教員同士の情報共有のデジタル化を推進し、教職員の資質・指導力の向上を図っている。

町立小中学校は学校規模に差があり職員数にも差があることから一律の対応は難しい点もあるが、職員会などの資料等について、クラウド上でやりとりすることでペーパーレス化を図っている。また校内での教員間の連絡手段としてグループチャットを利用している。

課題としては未だにFAXでの連絡があること、押印・署名が必要な書類が依然として残っていることが挙げられる。

FAXでのやり取りについては、校内では廃止に向けて取り組んでいるところだが、学校外からFAXでの回答を求められることもある。押印においては、まだ押印が必要な書類があり、すべてが廃止できないのが現状である。FAXの過度な利用、不必要な押印はクラウド環境を活用した校務DXを阻害するものと考えられる。佐川町例規集に掲載されている規則等の様式や教育委員会への提出物の押印については、佐川町全体で押印廃止がなされていることもあり、令和6年8月9日付文部科学省事務連絡「学校等のFAXでのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を徹底し、クラウドツールを活用することで校務DXを推進する。

また、学校と保護者間との連絡手段については、佐川町として「すぐーる」を活用し、学級通信などの配布や様々な連絡をしている。

様々な機関からのアンケートや調査が増え、手入力作業をするものも依然として残っている。今後は学校間や教育委員会との連絡は、校務支援システムのメッセージや文書收受機能を利用して行い、名簿情報の不必要な手入力作業の一掃に取り組む。また、次世代の校務支援システムの検討・導入にもつながる運用を引き続き行い、押印廃止についてもさらに見直しを行い廃止できるものについては廃止していく。

ICTを活用して校務の効率化を実現し、教職員の働き方改革を推進する。